成田 あれ・これ

令和５年２月号　第 332 号
発行：成田市観光協会
成田市花崎町８３９
０４７６－２４－３１９８

新型コロナウイルスの影響によりイベントの変更や中止が生じる場合があります。
最新情報をご確認の上お出かけください。ご理解の程どうぞよろしくお願いいたします。
尚、イベントの情報は令和４年１２月７日現在です。

成田山新勝寺 節分会

成田山新勝寺では、「国土安穏・万民豊楽・五穀豊穣・転禍為福」殊には「疫病退散」の祈りを込めて、恒例の「特別追儺（ついな）豆まき式」と、「開運豆まき」が執り行われます。「特別追儺豆まき式」には、大相撲力士をはじめ、NHK 大河ドラマ「どうする家康」の出演者の方々が特別年男として参加する予定です。

特別追儺（ついな）豆まき式

【開催日】２月３日（金）【 場 所 】成田山新勝寺大本堂正面特設豆まき所
第１回　11時～　年男100人、大相撲力士、大河ドラマ「どうする家康」出演者
第２回　13時30分～年男100人、大相撲力士、大河ドラマ「どうする家康」出演者
第３回　16時～　年男50人、大相撲力士
☆特別参加年男（大河ドラマ「どうする家康」出演者）は、1回目と2回目のみの参加となります。

開運豆まき　※「特別追儺豆まき」とは、別の豆まきです。

「開運豆まき」には力士、大河ﾄﾞﾗﾏ出演者は参加しません。
【開催日】２月３日（金）
【 場 所 】成田山新勝寺大本堂内
（御護摩祈祷にて豆まきを行います）
【 時 間 】第1回　9時30分～　第2回　12時30分～
　　第3回　15時～
【参加者】一般募集
【参加料】1人　1万円
【お問合せ先】成田山新勝寺
TEL　0476－22－2111　8時～16時

宗吾霊堂 節分会

宗吾霊堂では、「節分会追儺式」を修行し、年男はもちろん、女性のみ（特別年女）の豆まきも執り行われます。
【 日 時 】２月３日（金）　年男　11時～・16時～　特別年女　14時～
【 場 所 】宗吾霊堂本堂前
【お問合せ先】宗吾霊堂　TEL　0476－27－3132

※他にも市内の神社仏閣では、節分の儀式が行われます。
詳細は直接、各寺社にお問い合わせ下さい。

２月の行事について

房総のむら「ビックりひなまつり」　房総のむらに寄贈された約200体のひな人形を、農村歌舞伎舞台に展示します。とてもビッグなひな飾りをお楽しみください。※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
【日　時】２月11日（土・祝）～3月5日（日）　9時～16時30分
【休館日】月曜日（月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌日休館。）
【お問合せ先】千葉県立房総のむら　TEL　0476－95－3333

成田の梅まつり

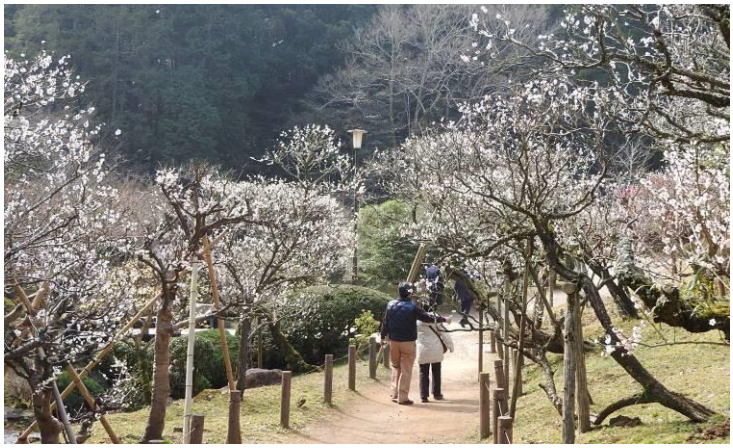
四季折々趣のある庭園の成田山公園には、紅梅白梅合わせて約500本が植えられています。
平均樹齢は70年を超え、苔むした古木が多く凛とした気品ある花と香りで観光客を楽しませています。
梅まつり期間中の土曜・日曜は、津軽三味線、箏・尺八、二胡などの演奏会や投句コンテストを開催します。
【　期　　間　】２月１８日（土）～３月５日（日）　※期間中の各土曜・日曜にイベントを開催、雨天中止。
（天候の他、新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止となる場合もあります。）
【　時　　間　】１０時～１５時【　場　　所　】成田山公園内西洋庭園

観梅の演奏会　成田山公園内西洋庭園において１日２回演奏会を行います。時間：１１時～・１３時３０分～

観梅の投句コンテスト

兼題は梅！１人２句以内未発表の作品の投句をお待ちしております。成田山公園内西洋庭園に設置された投句箱にご投稿ください。宗吾霊堂本堂前にも投句箱を設置します。

氷の彫刻展　成田山大本堂前において開催予定です。（日付未定）



【お問合せ先】（一社）成田市観光協会　TEL　０４７６－２２－２１０２

いざ！成田詣へ～街道旅日記～その⑤

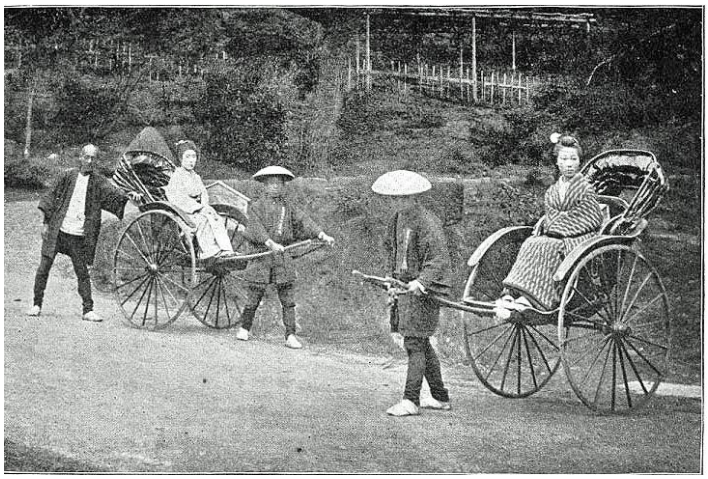
前回までは、江戸時代の成田詣の交通についてご案内してきました。

さて、時代は文明開化！明治へと移ります。今月号は、日本における、近代交通の出発ともいえる人力車についてみていきましょう。

明治・大正の日本を代表する乗り物である人力車が最初に登場したのは明治3年。東京からまたたく間に全国に普及しました。文明開化後に西洋から伝えられた交通手段としては馬車もありましたが、一部の裕福な人々や公用が主でした。一方、人力車は庶民も利用できる初めてのクルマでした。当時創作された、落語や小説の世界にも「クルマ」や「クルマ屋さん」がよく登場します。「俥（クルマ）」、つまりは人力車を指し、一般大衆に広く浸透していたことが、うかがい知ることが出来ます。

明治４年５月の新聞には、東京府下の人力車数は、２万５千台と記されています。以前の主要な交通機関であった駕籠が、最も多いときで約１万といわれています。使用許可を受けてから、わずか１年たらずでこの普及率！驚かされますね。

その後、三輪や四輪もでき、６人乗り２人引き、９人乗り３人引きなどの大型の人力車も考案されました。



中には大八車に畳を敷いて、６人を乗せて２人で引くものも作られるなど、世はまさに人力車ブームであったといえるでしょう。都市の道路という道路は人力車が疾走し、客引きの競争から、新聞備えつき車やコタツつき車なども登場しました。明治１３年には、全国の保有台数が１３万台にもなりました。

基本的には近距離での営業を役割としていましたが、明治１０年代には、東京と仙台間、神奈川と京都間などの長距離でも運行されていました。１人の車夫が通して引くのではなく、宿駅ごとに車夫が交替し、目的地を目指していました。（次回へ続きます。）

☆イベント等の関連情報については、FEEL成田（https://www.nrtk.jp）をご覧下さい。☆